

《提 案》

部門制の導入について

分析センター長 三田村 孝

分析センターに研究員会議に代わって運営委員会が設置されたのは1990年のことで、以来、教授会報告によってセンターの運営状況が周知されるようになりまして学内の共同利用施設としての共通認識がさらに深くなった感があります。

運営委員会には必要に応じて専門委員会を設けることができるようになっております。これまで、5つの分野について専門委員会が設けられ、関係教官及び技官の並々ならぬご努力によって大型機器の保守管理、講習、将来計画に関することが審議、実施されてまいりました。

センター設置当初は理学部及び工学部既設の大型機器数台がセンターに集約され、その後は両学部からの概算要求によって設置された大型機器を共同利用として有効に利用する目的からセンターに移管されるようになったものも数台あります。さらにはセンターからの概算要求によるものを含めると一昨年度の時点で大型機器は14台になりました。これらの機器の多くは設置時の事情によって専門委員の方々も関係する機器が特定され、極めて有効に管理運営されてまいりましたことに、あらためて厚く御礼申上げる次第です。

最近の状況は少なからず事情を異にします。多くの関係各位のご尽力、ご協力によりまして、昨年度は超微小領域複合分析装置（分析型電子顕微鏡）及び超伝導核磁気共鳴装置が設置され、今年度は極微量元素分析システム、多機能高出力X線分析システム（以上センター要求）及び理学部から要求のX線単結晶構造解析装置の設置が予定されております。このようにセンター要求による機器の割合が多くを占めるようになりました。設置されて約20年を経過し、十分な機能がでない装置を除きましても今年度末には18台の大型機器が設置されることになりまして、センター職員が手薄な現在、これまでとは違った運営形態を取らざるを得なくなったというのが実情であります。

そこで、運営委員会にお計りしまして専門委員会を発展させた形の部門制を導入することになりました。なお、このことに関しましては多少手続き上の問題が残されていることを付け加えておきます。5部門及びそれに所属する機器（設置予定は下線で示す）は以下のようになります。

A 元素・質量分析部門

ガスクロマトグラフ質量分析装置、質量分析装置、示差熱分析装置、有機元素分析装置、極微量元素分析システム

B 表面複合分析部門

複合表面分析装置（ESCA/AES）、簡易型走査電子顕微鏡、超微小領域複合分析装置（分析型電子顕微鏡、S-2400/S-4100型）

C 磁気共鳴部門

超伝導核磁気共鳴装置（400MHz、液体及び固体兼用）、超伝導核磁気共鳴装置（400MHz、液体）、超伝導核磁気共鳴装置（200MHz、液体）フーリエ変換核磁気共鳴装置（90MHz、液体）

D X線解析部門

微小部X線回折装置、X線回折装置、多機能高出力X線分析システム、X線単結晶構造解析装置

E 分光分析部門

フーリエ変換赤外分光光度計、顕微FT-IRシステム

今後は、5つの部門長に運営委員の方になっていただいて部門委員会と運営委員会が直結した組織に改めることとなりますので、専門委員から部門委員に代わっていただく方、新たになっていただく方にはこの趣旨をおくみ取り下さるよう紙面を借りてお願い申し上げます。このように大型機器が充実してまいりますと円滑に運営するためには各部門ごとに専任の技官の配置が必要なことは自明の理であります。従いまして当然概算要求で要求しておりますが、なかなか実現しないのが現状であります。今後とも部門委員の皆様にご協力をお願いすると共に、センターの今後の発展のためにも学内の叡知を集めて技官の配置が実現できるようにお願い申上げる次第です。